

Essay
TAKEUCHI
Mariya
No.07

旅 の こ と ば

魔法のような言葉

どんなに英語が苦手な人でも小学生でも、感謝を伝えるときに使う英語が“Thank you.”だということは誰でも知っている。カタカナで表す「サンキュー!」は、もはや外来日本語といってもよいだろう。

アメリカの高校に留学した48年前、生活の中でいちばん使ったのもこの言葉だった。優しいホストファミリーが私にしてくれる親切のひとつひとつに対しても、学校でいろいろ助けてくれる先生や友達の気遣いに対しても、レストランで料理を運んでくれるウエートレスに対しても、とにかく毎日100回以上はこの言葉を使い続けたはずだ。そして、魔法のようなその言葉が生み出すお互いの笑顔や絆によって、コミュニケーションはどんどん広がっていったように思う。時には“Thanks a lot!”や、“I appreciate it.”や、“I’m so grateful to you.”といった言い方に変えたり、相手に対してさらに大きな感謝の気持ちを伝えなければ、“I can’t thank you enough.”のような表現もできるようになった。

そのうちにふと気づいたのは、日本での生活では自分がそこまで頻繁に口に出して感謝を伝えることをしていなかったのではないかと、という反省の事実である。日本語での「ありがとう」は、単純に「あなたに感謝します」という英語とは違って、「その行為は誠にあり難きこと」「あたりまえではない稀有なこと」というニュアンスが入っているせいか、日常的に使うにはほんの少し重さがあるのかもしれない。だからこそ、その裏に込められた日本人独特の奥ゆかしさへの共感とともに、こんなすばらしい表現を持つ日本語に誇りのようなものさを感じるようになった。

以来、留学時に“Thank you.”と言い続けていたのと同じやり方で、日本での日常生活の中でも「ありがとう」をできるだけ気軽に口に出すことを私は大切にしている。たとえどこに旅しても、その国独自の感謝の言葉の中には、魔法のような力があると信じているから。



竹内まりや
たけうち・まりや

シンガーソングライター。1955年、島根県出雲市生まれ。高校3年のとき、AFS交換留学生として、アメリカ・イリノイ州のハイスクールに留学。慶應義塾大学在学中、歌手としてデビュー。現在は、多くのアーティストに作品を提供しながら、自らもシンガーソングライターとして活動。「Expressions」をはじめ、数々のアルバムでミリオン・セラーを達成。